

郡山でわたしができること

まる（福島県）

私は、福島県郡山市の子育て支援団体「プチママ」のスタッフです。東日本大震災のあった、あの3月11日、ここ郡山でも相当の被害がありました。大きな余震が毎日続き、東電原発事故の余波もある中、一日も早く、みんなが集まれる子育てサロンに戻れるようにと、来られるスタッフが交代で、壊れた遊具や備品を片付けたり、補修できる物の修理などをしていました。食糧が思うように手に入らない状況で、お菓子や野菜を持ち寄って食べながら作業する日々でした。

少しずつ通信手段が復旧してきて、常連の利用者さんからは近況メールや電話開き、拠点を離れた支援も始まりました。どこにいても子育て支援はできる、という思いの一方で、やはりいつも目にしてきた子ども達の笑顔が見られないことへの不安は常に片隅にありました。

4月末にサロンを再開したものの、誰も来ない、来ても一、二組の日が続く中で、この郡山で子育て支援を続けていく意味があるのか？サロンを閉めてしまった方がいいのではないかと？何度も自分に自問自答していました。たまに見る子ども達の笑顔や、ママがここで不安な気持ちを抑えたい吐き出して帰っていく姿に、まだ私達サロンのニーズがあると、やる気を奮い立たせることで必死でした。

なかなかモチベーションが上がらない日が続く中、長く実家に一時避難していた常連の姉妹が久しぶりに遊びに来てくれました。3歳と1歳の幼い二人が「せんせい！」と言って私のところへ駆け寄ってく

が入るようになりましたが、そのほとんどが「実家に避難します」「引越します」という郡山を離れる報告ばかりでした。元々、郡山は転勤族が多く、利用者の8割が県外出身者で、新しい友達作りを目的に利用する親子も多かったため、こういった緊急事態には真っ先に郡山を離れる選択をする方も多かったのです。

また一組、今日も一組と郡山を離れる報告が入り、果たしてサロンは再開できるのだろうかという不安に駆られました。その一方で全国のひろばからの応援や義援金などをいただき、それを携えて避難所をまわり、親子のためのプチ広場やお茶会などを

れたのです。私は思わず「お帰りー」といつて一人ずつ、ぎゅっとハグしました。嬉しさのあまり、たぶん二人がくるしいって思うぐらい強く。二人の心の中には、ちゃんとこのサロンで遊んだ記憶や、一緒に遊んだ私達スタッフの存在を覚えていてくれたことが嬉しくて嬉しくて仕方ありませんでした。

サロンはまだ、震災前のような毎日賑やかな子ども達の笑顔であふれる状況には戻っていません。でも、少しずつ、戻ってきたお友達や新しいお友達が増えてきています。こうした、可愛い笑顔を守るために！ママがいつも笑顔でいられる環境づくりのお手伝いのために！やっぱり私達は頑張るママたちを全力でサポートしていかなければならないと強く感じています。

